

啄木ゆかりのカルタ寺

本行寺の門信徒会報

— 来た道・ゆくと道 —

第85号

2025年8月1日



ホームページ

本行寺門信徒会

釧路市弥生2丁目 TEL 41-5329

<https://hongyouji946.com/>

E-mail hongyouji@poppy.ocn.ne.jp

— 本行寺ホームページより —

ホームページが
誕生しました。本行寺 住職
菅原 顯史

今年3月、本行寺本堂・旧納骨堂が国の有形文化財に正式登録されました。この登録を機に本行寺公式ホームページを作成いたしました。

また、それに併せてインスタグラム・フェイスブックのアカウントも作成させていただきました。ご門徒の方々のみならず沢山の方々、そして幅広い世代に本行寺を知っていただきたいという思いで作らせていただきました。

これからお寺の法要や行事の案内、お寺の日常など身近な情報も発信していきますので、ぜひご覧いただければと思います!!

合掌



「和顔愛語」と「知恩報徳」
—— 釈徹宗師の講演を聴いて ——

5月20日

釧路組仏教女性会連盟 創立50周年記念講演会

広報部 山本悦也

このたび、釧路組仏教女性会連盟創立50周年記念講演会を聴く機会をいただき、感謝申し上げます。

釈徹宗師は、今回の法話で「和顔愛語」と「知恩報徳」の二つの四字熟語についてについてふれ、解説をしてくださいました。二つとも「無量寿経」というお経のなかに出てくる言葉です。

和顔愛語は、「和顔」は穏やかな顔、「愛語」はやさしい言葉を意味し、笑顔で愛情のこもった言葉で話すことです。この言葉は、学校での教訓



本行寺門信徒会 会長 種市 顯治

ごあいさつ

今年の総会で会長に再任させられる事になりました。
ご門徒の皆様にご迷惑をかけないよう

うにとめますので、どうぞよろしく
お願いいたします。
すでにご承知のことと思いますが、
三月に本堂と旧納骨堂の「国有形文化財」登録が官報に掲載されました。このことは、お寺にとって喜ばしいことでもありますし、お寺の歴史に残る財産でもあります。これからは護持発展のために門徒の皆様とともに努力する所存であります。お力をお貸しください。

この度、地域の方のご尽力で記念事業実行委員会を立ち上げ、記念事業として「詩劇 啄木アンソロジーinくしろの夜」の上演を本行寺本堂で十一月に開催する事になりました。詳細は後日案内いたします。
お寺に「啄木資料館」があること、お寺でおこなった「歌留多会」に啄木も参加されて居た事から、このような事業が企画されました。ご門徒の皆様にはぜひ観劇されますようお願いいたします。

します。
物価高、特に「米価」に関わる問題で世間はにぎわっておりますが、早期の解決を願うばかりです。
お盆、秋彼岸、報恩講とつづきますが、お寺にお参りにおいでになり、ご法話を聴聞する機会をつくり、仏さまの心に近づけるよう努力しましょう。
南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏
合掌

になったり、額や書幅にも書かれたりしています。マリリン・モンローは「笑顔は最高のメイクである」と言っています。いつも笑顔で愛情のこもった言葉で相手に接することが大切ですが、凡人にはなかなかできません。

次に、知恩報徳は、文字通り解釈すると恩を知り、徳に報いるということですが、親鸞聖人は、報いずにはいられないような恩恵を他人や自然からたくさんいただいていることに気づかされること自体が大切だとおっしゃっています。現代社会では、人間関係が希薄になり、他人がどうなっても自分のことしか考えられない。科学的な見方や生き方こそ正しく、目に見えるもの

だけが真実だと思ひ込んでいます。心の底から「おかげさまで」と言える人間になりたいです。

徹宗師は、大阪池田市如来寺の住職で相愛大学の学長です。『維摩経』とらわれない、こだわらない』NHK出版100分de名著など多数の書籍を出版されています。時間が許せば、池田小学校事件についてのお話しもお聞きできればよかったです。ありがとうございます。ありがとうございました。



令和7・8年度 役員名簿				令和8年	令和7年
会 長	種市 顯治	1月1日	門信徒元旦礼拝	4月9日	会計監査
副 会 長	草島 守之義	2月4日	第7回門信徒僧侶研修会（釧路組研修部・仏壮部合同）	4月16日	役員会
法 要 部 長	板 宗利	3月20日	春の彼岸法要	5月16日	定期総会（常例法座終了後実施予定）
副 部 長	高野 厚次			6月15日	会報部会（会報の件）
	高杉 耕三			6月15日	初参式予定
	今村 勲			7月10日	特別講演会
財 務 部 長	中川 清広			7月30・31日	キッズサンガ寺子屋子どもの集い
副 部 長	末永 勝美			8月15・16日	孟蘭盆会法要
	濱 容子			9月23日	秋の彼岸法要
	多賀 信雄			10月15日	報恩講準備（莊嚴・お磨き・清掃等）午後1時から
企 画 部 長	大森 一道			10月16日	宗祖報恩講法要・永代経法要（16日のみ修行予定）
副 部 長	本間 弘人			11月15日	会報部会
	野田 光博			11月23日	文化財登録記念・啄木関連イベント
会 報 部 長	水口 吉朗				
副 部 長	山本 悦也				
	両角 幹彦				
	千島 保利				
監 査	立浪 博勝				
	宮部 一枝				

行事・事業計画案

教化活動計画

☆仏教婦人会

毎月16日 午前11：00～12：00

☆仏教青年会

毎月1回

☆仏教壮年会

毎月1回

☆藤 花 会

毎月1回

☆光 寿 会

毎月15日 午後12：00～13：00

☆常例法座

毎月15日 午後12：50～13：40

毎月16日 午後12：50～13：40

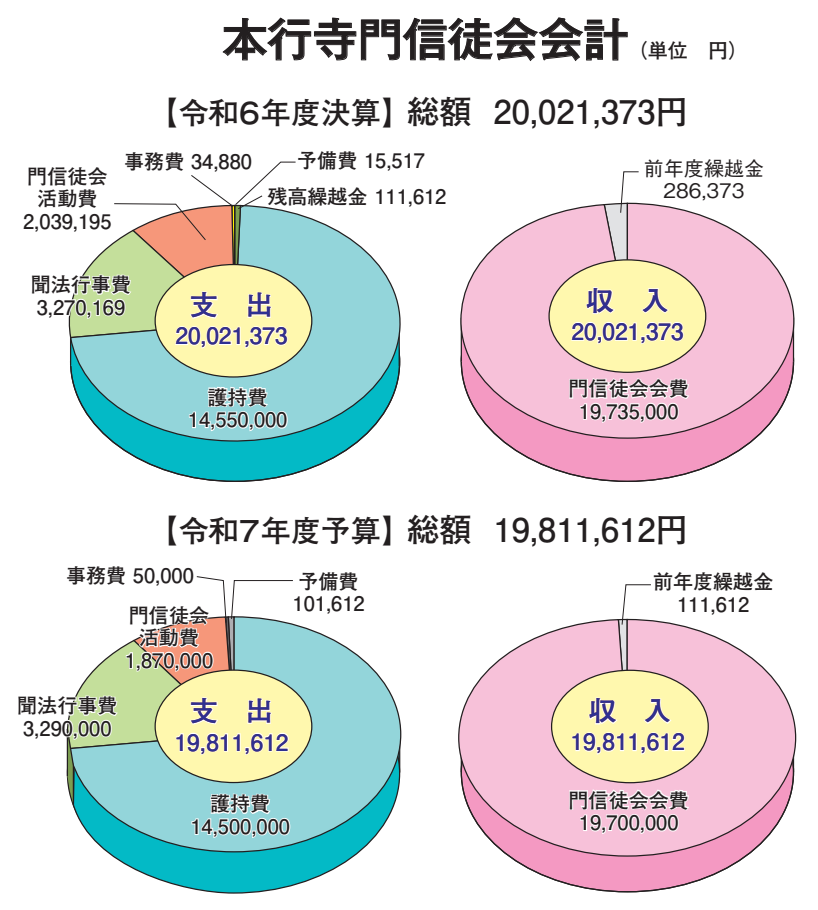
☆おあさじまいり

毎月16日 あさ 7：00～

☆日 曜 礼 拝

第3日曜日

あさ 9：00～10：00



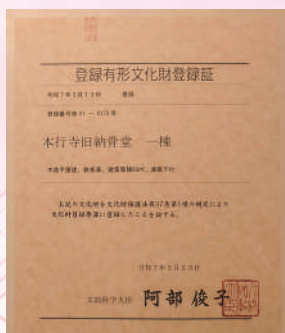
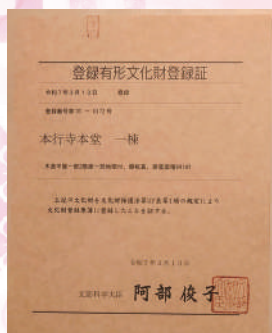


国有形文化財登録 伝達式

令和7年7月1日

七月一日、本行寺本堂において、鶴間釧路市長から国有形文化財登録証を伝達いただきました。
鶴間市長はじめ、岡部教育長、秋葉博物館館長のご臨席を賜り、本行寺からは総代の皆様のご出席をいただきました。
釧路では二例目、寺社仏閣としては史上初めての登録となります。大変な栄誉であり、あらためて文化財に登録された重みをひしひしと感じております。

住職 菅原 顯史



樹木葬「本行寺花樂苑」が 開苑しました。

ご門徒の皆様にはご案内したとおり、このたび境内に樹木葬を建立いたしました。

近年は、納骨堂じまいや墓じまいをされて永代供養をされる方が多くなっております。さらには納骨堂から市内の墓地や近隣町村の墓地に移し樹木葬に改葬される方も増えてまいりました。

それらをされる方の多くは、「後を継ぐ者がいない」「納骨堂や墓を護るものがない」「釧路を離れる」これが主だった理由です。

お寺にも合葬所がありますが、多くの方が「永代供養」遺骨を土に帰す」というイメージのようです。そのため樹木葬を希望される方が多くなっております。北海道ではまだ浸透しておりませんが、本州では樹木葬が主流になりつつあります。

ご門徒様の中にはお寺にあれば良いのに……という声を多く聞いてまいりました。「せっかく長年お世話になってきたお寺から離れるのは申し訳ない。」などの声もあり、何とかご縁を繋ぐ方法はないかと総代さんからもご意見を頂戴し協議させていただいた結果、樹木葬を境内地で行うということになりました。

この樹木葬は本行寺ご門徒以外の方も利用でき、またペットも一緒に入ることが可能です。今まで市内にはなかった画期的な樹木葬となります。

是非、お寺にお参りの際は「本行寺花樂苑」にお立ち寄り下さい。



本行寺歴史探訪

—その27—

「遍照十方」編集委員

福田 昭 南

テレホン法話集 『こんにちは』

第五世 弑也住職が耳から心へ
うったえる布教方法として、先端機
器を使った「テレホン法話」を始め
たのは、昭和五十八年一月のこと
でした。

電話四〇一・二四二四にダイヤルす
ると弑也住職の『ハイ、こんにち
は！』の声が始まるテレホン法話
は、いつでも、どこでも、誰でも聞
く事ができる三分間の法話です。
一話は一週間（月々日）続き、そ
の内容は仏教の教えに限らず、世間



発行された『こんにちは』



弑也住職直筆の原稿

住職から依頼された編集委
員は、近藤昌夫、山田剛一
郎、福田昭南、高原勇一の各
氏でしたが、いずれも本作り
には素人の集まりで、近藤氏
が装幀と挿絵を担当し、ほか
の者は辞書を片手に浄書に取
り組むという状況でした。
なんとか校正を終えた第一
集は二千部を出版し、ご門徒
を中心に配布したものの、法

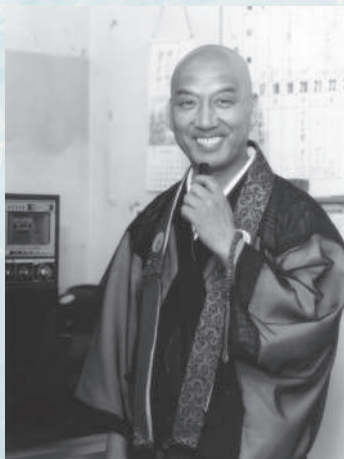
の話など多岐にわたり、誰にでも
わかりやすく理解できるよう配慮さ
れています。
このテレホン法話は弑也住職がご
往生される平成四年の五月まで続け
られ、その数は四八九話にのぼりま
す。

当初はこの法話を「本」として出
版する考えはありませんでしたが、
昭和六十一年に本行寺門信徒会が創
立十五周年を迎えたことから、その
記念事業として過去三年分の法話を
まとめて出版することになり
ました。

類の寺院などから婦人会や法座のテキ
ストにしたいとの注文もあり、最初は
それに応えていましたが、在庫もなく
なり止むなくお断りすると希望者から
は再版を望む声が多々ありました。

第二集、第三集は、第一集の反省を
踏まえて、弑也住職の手書き原稿を、
ご門徒の山元忠蔵さんがワープロで浄
書して下さり、極めて効果的な編集作
業を進めることができました。特に第
三集は、弑也住職が平成四年十月にご
往生されたことから、悲しみを抱え
ながらの作業となり、遺稿となった
二十一話を含め一七七話が収録され
るに至りました。

二集、三集共に二千五百部を出版し
ましたが、すでに本行寺にも在庫がな
く、今では入手困難な状況です。
ご門徒の皆様には配布されておりま
すので、時には開いて、布教伝導に情
熱を燃やされた、弑也住職の生涯に思
いを寄せてみてはいかがでしょうか。



雑音を避けるため早朝一人で
法話を録音する弑也住職



本行寺本堂・旧納骨堂
国有形文化財登録
記念事業

啄木の青春期から北海道漂泊時代
啄木の姿を描いた星光二氏の新作詩劇

詩劇「啄木アンソロジーin Kushiroの夜」
& 記念講演「啄木と本行寺」

釧路啄木会会長
北畠 立朴氏



2025

11.23



SUN 13:30 START (開場13:00)

入場無料

【要事前申込】

場所/本行寺本堂 釧路市弥生2-11-22 申込先/090-9524-9567 (事務局/中村)

法味一言

今日一日 私は私 自分を汚してはならない
一年の計より 一日の行だと
私は私の心の書初めをする

本行寺第四世住職 菅原覚也著「粒々滴々」より

特別講演会



「心の奥の声を聞く」を聴聞して

光寿会 板 宗利

令和七年七月十日、本行寺にて門徒僧侶合同研修会が行われました。

御講師の武田正文師は、島根県高善寺のご住職であり、法務のかたわら学校や企業で心理療法師の経験を生かし、カウンセラーとして臨床に携わっておられます。

武田先生の講話の中で、最近話題のAI（人工知能）に触れられておりました。

それは、社会的貢献をするためにAIを活用し、より複雑になってきている社会の変化を効率的に分析し、種々の問題を効果的に解決するためのツールにしようという考えです。また、人間の仕事をAIに肩代わりさせて心の余裕をつくり、その時間でお寺に通ったり、文化的な事が見直されてくるというお話もありました。これからのヒントになると感じました。

合掌

仏教婦人会

本行寺仏教婦人会会長 宮部 一枝

去る令和七年五月二十日、本行寺本堂に於いて釧路組仏教女性会連盟の令和七年度総会並びに創立五十周年記念講演会が行われました。

仏教女性会連盟加盟寺院のご住職様、坊主様、各会員の皆様合わせて約七十名の方が参加されました。総会では私が今年度から連盟会長を仰せつかり二年間の任期を一生懸命に努めさせていただくとご挨拶させていただきました。

また、記念講演会では武蔵野大学総長の釈徹宗先生をお招きしてご講演をいただきました。著書も多く、出版やテレビ等で活躍の釈先生のご講演を有難く拝聴させていただきました。

仏教婦人会では毎月の例会、ご奉仕活動、法話会、日帰り旅行など様々な楽しい活動をしております。是非、一緒に楽しませてください。お待ちしております。



お知らせ

◎宗祖報恩講法要◎

10月16日 木曜日

私たち門信徒には特に大切な行事です。御講師の貴重な法話を聴聞し、今後の生活にお役立て下さい。

◎国有形文化財登録記念事業◎

11月23日 日曜日

本堂、旧骨堂の文化財登録を記念して本行寺と関わりのある石川啄木の詩劇と記念講演を開催します。5ページ下をご覧ください。

◎本行寺啄木資料館特別企画展◎

8月1日～12月29日

同じく文化財登録を記念して、啄木資料館にて特別展を開催します。啄木資料館オリジナルの啄木等身大パネルやのぼりの展示があります。記念のご朱印も販売しています。門徒の皆さんもそうでない方もぜひお立ち寄り下さい。

本行寺仏教青年会

森谷淳平さんが
全国機関誌「まこと」に
掲載されました



北海道教区
森谷 淳平

- ① 釧路出身。
祖父の葬儀がご縁。
ご住職がとてもしつかり、
お寺の行事に参加していただくに、
青年会に関わるようになりました。
- ② 釧路のホテルに勤務。
- ③ 凡夫の私が、この世の中に生きることを恥ずかしく思っているにも、
阿弥陀さまが救うとはたらきかけてくださっている
ということを知ることができました。

編集後記

毎週、NHK大河ドラマ『べらぼう』を楽しみに見えています。吉原の花魁の衣装、浮世絵と戯作者、田沼意次の時代背景など探せばいろいろ見どころがあります。特に北海道（蝦夷地）との関係が興味深いものです。

蝦夷地の8代藩主、松前道広が出てきます。「渡る世間は鬼ばかり」で子役だったえなりかずき君が演じています。道広は「笑顔で人に火縄銃を向け、人が苦しんでいることに快感を覚える」悪い藩主です。和人とアイヌ民族の最後の戦い「クナシリ・メナシの戦い」（1789年）もこの時代に起きました。根室の納沙布岬に碑が建っています。道広の実の弟、廣年（蠣崎波響）も出てきます。有名な絵師で厚岸の首長イコトイも描いている『夷酋列像』は、当時の天皇の目に留まっています。（広報部 山本悦也）